

外に目を向ければ桜が早くも散り始めており、勇み足の春の風景に驚く今日この頃です。油断できない情勢となっておりますが、いつも通りの最善の医療ができるよう、引き続き栄養面から病院をサポートして参りたいと思います。今年度最後のNST 便りは「脂肪乳剤について」お送りします。



静脈栄養管理と脂肪乳剤

☆イントラリポス 20%・100mlの組成☆
成分：大豆油 20g+添加物 熱量：約 200kcal



なぜ静脈栄養施行時に、脂肪乳剤は投与する必要があるのか？

- ・必須脂肪酸欠乏症予防（脂肪乳剤を投与しないPN管理下の成人では約4週間で発生する）
- ・肝機能障害ならびに脂肪肝発生予防

PPN（末梢静脈栄養）施行時に脂肪乳剤を併用するメリット

- ・投与エネルギー量を増加させるうえで有利（糖質・蛋白質は4kcal/gに対し、脂質は9kcal/g）
- ・血栓性静脈炎の予防に有用（PPN製剤と脂肪乳剤を同時に投与することにより浸透圧を下げるができる）
- ・NPC/N比（非タンパクカロリー/窒素比）を適正に保つために有用（PPN製剤はNPC/N比が低い）

脂肪乳剤を投与するときの注意点

- ・投与速度は0.1g/kg/時以下とし、1日1.0g/kg以上の投与は避ける
- ・栄養輸液のバッグ内に混注せず、単独または側管から投与する（感染対策および凝集することを考慮）
- ・投与後は生食フラッシュをする（感染対策および凝集することを考慮）
- ・高トリグリセリド血症が起こりうるため定期的なモニタリングを行う
- ・感染の急性期には投与中止を検討する。（脂肪乳剤の原料である大豆油は ω 6脂肪酸が多く含まれる。 ω 6脂肪酸は炎症反応を増強し、免疫能を低下させる脂質メディエーター（プロスタグランジンなど）の材料となるアラキドン酸に代謝される。したがって感染の急性期に脂肪乳剤を投与されると、病態が悪化するおそれがある）

静脈栄養施行時は、脂肪乳剤を併用することが基本となりますが、病態によって使用を見合わせた方がよいとされる場合があります。不明点がありましたらNST メンバーへご相談ください。



NST 学習会

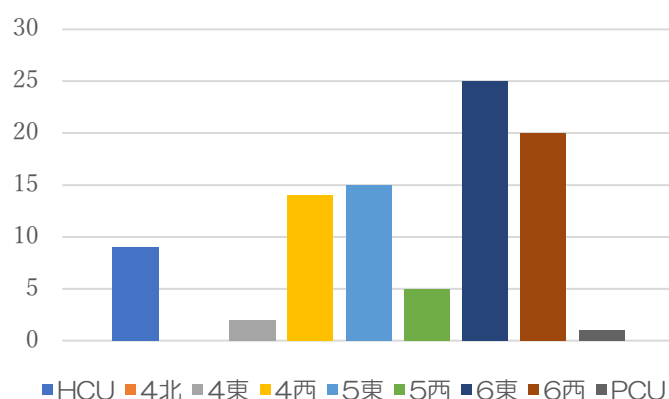
情勢を鑑み 3 月のNST 学習会は中止となりました。来年度のNST 学習会は未定です。決まり次第お知らせします。



2 月分の実績

	TPN（延べ人数）	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
2月	150	460	2	30	91

2月病棟別回診数



TPN・・・中心静脈栄養（高カロリー輸液）
EN・・・経腸栄養（経鼻・胃ろう等からの経管栄養）

★NST 対象患者さんは、毎週の体重測定と SGA の入力をお願いします。

★NST 依頼を入力する際、依頼理由を備考欄にご記入ください。介入時にスムーズになります。（例：低 Alb/褥瘡/周術期/EN/PN etc.）

文責：NST 専従 管理栄養士 谷岡 恵